

伝統文化の高山

No.128 2012.1.1 Culture in Takayama

謹賀新年



「昇龍」東 昭廣 作

社団法人 高山市文化協会 発行



高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel.34-6550 Fax.34-6877

メールアドレス●mail@takayama-bunka.org
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org
(文化会館の催し物案内はこのホームページでご覧ください。)

動告の見送りは、その事前審査の過程で、高山祭の独自性を問われたものと考えざるを得ません。ここで考えてみたいのは、登録申請の発想に

「ユネスコ人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に「高山祭の屋台行事」記載への動告が見送られ、情報照会といういわば差し戻しに等しい動告を受けました。この結果は、将来において「高山の古い町並み」がユネスコ世界文化遺産に登録されるまでの道のりの速さを予知させるものであります。

明けましておめでとうござります。去りにし年は、東日本大震災やユーロ圏の経済不安にはじまる不況など、我が国にとって最悪とも言える一年でありました。そうした中で、我が高山市においては、期待されていた



もっと高山市民としての矜持を持とう

(社)高山市文化協会 会長 小鳥 幸男

において、金森氏領国以降の歴史だけを近視眼的に求め過ぎたきらいがあったのではないかとこのことでは、もう少し、長い、広い視野をもって我が高山市を眺めてみると、高山祭の屋台の木工技術の総合美、民家における町並みの建築美の由って来たる所以は、遠く我が国の草創期において活躍した飛騨の匠集団の血と汗の

努力の結晶が高い精神として伝統的に受け継がれて来たことと云えるでしょう。こうした遠因を考えると、高山市及び高山市民には、それを無意識の内に、潜在的かつ伝統的に高い独自の文化性の血が流れていると思われま

す。高山市民は一刻も早く、このことに思いを致し、匠の血が市民生活の上に流れ、創造させ、遵守させて来た精神のようなものを備えていることを常に自覚し、矜持を持ちたいと思います。この矜持を保つためには、それに恥じない高い文化性と創造力が求められます。先人たちのそうしたたゆまぬ努力によって開花、結実したものが、町並みにおける建築美であり、高山祭における屋台の総合美に結集され、精華として輝いていると思われ

文化功労・永年功労者を顕彰

永年に亘り、文化振興とその発展に尽力された方を顕彰します。表彰式は1月1日開催の新年互礼会で行います。(敬称略・順不同)

文化功労者



小林 啓利

彫刻家 (上宝町吉野)

日展に5回入選するなど、永年にわたり彫刻の研鑽に努められ、文化向上に貢献された功績。



瀬川 斐山

書道家 (新宮町)

日展に7回入選するなど、永年にわたり書道の研鑽に努められ、後進の指導に貢献された功績。

永年功労者



泉 孝一



北平 真由美



洲崎 孝雄



田口 保男



田近 薫



谷口 津弥子



野畑 国久



丸山 永二

全員が毎年夏休みに各自一台のインスタントカメラを持って自分の感じた高山にレンズを向けシャッターを押します。その中から「とっておきの一枚」を選んで出品します。審査時の功一氏の言葉は、子どもたちの心にぐいぐい浸透していきます。「素直な心と、素直な目でシャッターを押すんだよ。」とやさしく子どもたちに語りかけていました。

北小学校と功一氏との出会

「高山のよさは、山や河がとってまきれいで、みんな優しい目をしているということ、審査の時に稲越先生の話聞いて、改めて感じました。」これは、平成十七年に北小学校が稲越功一氏を審査員として招き、今年で七回目を迎えた「私の好きな高山」写真コンテストの時の子どもの思いです。

五・六年の子どもたちは、

いは、県の「能力開花事業」の講師に登録されていた、高山市出身で一流プロ写真家の功一氏を審査員として招くというものであり、それが「私の好きな高山」だったので功一氏の持つ「自然や人のぬくもり、ふるさとへの熱き思い」を教育に生かしたいという願いからスタートした写真展でした。

しかし、第五回を終えた年

明けの平成二十一年二月、残念ながら功一氏は、六十八歳の若さで肺ガンのために他界してしまいます。その後、夫人の敬（きょう）さんを招き、敬さんを

夫人とともに
中心とした実行委員の森瀬一幸元高山市教育長、谷口茂雄元北小学校長等が引き続き審査講評する形で本年度も実施されました。そし



コンテスト表彰式にて

続ける中で、国内外にて多くの作品集を出版すると共に、様々な展覧会を次々に開催。最近では、平成十九年写真集「新シルクロード」を出版し、銀座にて同展覧会を開催。平成二十年「まだ見ぬ中国」書籍出版と併せて、銀座にて同展覧会を開催。また、平成十八年の高山市制施行七十周年記念誌「たまゆら」の写真を担当。あとがきに「飛騨人の透明さ」と題して文を寄せる。その結びに、「略し私は高山に生まれたことにますます自信を持つ今日この頃である。」と書き綴っている。

て、今後も継続して実施していく予定となっています。

功一氏の高山の自然や人を愛した気持ちをいつまでも忘れないように、平成二十二年四月、北小学校の玄関前の通称「のぐるみ池」の中州に、功一氏の愛した「素直な心と素直な目」という言葉を刻んだ石碑を設置しました。次の年の春には、北小美術館開設に併せて写真コンテストの作品展示特設コーナーも新たに開設しました。

さて、ご存じの方も多いかと思いますが、ここで少し稲越功一氏の経歴を簡単に紹介しておきます。

昭和十六年高山市に生まれ、青年期に東京に出る。昭和四十五年フリーランスカメラマンとして活動を開始し、昭和五十五年には講談社文化賞を受賞。精力的に写真撮影を

このように、作品集や展覧会等を通して国内・海外にて活躍された功一氏ですが、その軸足はしっかりと「ふるさと高山」に根付いていたことを改めて強く感じさせられます。だからこそ、功一氏は子どもたちとの「私の好きな高山」を通してふれあいをとても大切に、そしてとても楽しみにしていたのです。「素直な心と素直な目」、この功一氏の志は、写真コンテストと共にいつまでも北小学校の子どもたちと多くの市民の心と目に生き続けていくと確信しています。

昭和十六年高山市に生まれ、青年期に東京に出る。昭和四十五年フリーランスカメラマンとして活動を開始し、昭和五十五年には講談社文化賞を受賞。精力的に写真撮影を

市制施行75周年記念
高山市文化芸術振興事業

平成24年 飾り物展

～干支「辰」と教会始のお題「岸」～

■日時/ 1月13日(金)～15日(日)
午前9時～午後7時(15日は午後4時まで)

■場所/ 高山市民文化会館 3-11

主催：(社) 高山市文化協会 共催：高山市、高山動物愛好会

「岡目(目)」

「風と共に去りぬ」には主語がない。原名では「Gone with the Wind」と過去完了形になっている。過ぎ去ってしまった、二度と帰らぬものは何か？

レフト・バトラーか？
落馬して死んだ幼い娘か？
大農園の莫大な財産か？
いろいろ考えられるが「古き良き時代」がどうも一番落ち着きがいいようだ。

すべてを無くしたスカールト・オハラは言う。南部のまっ赤な夕陽を背に「そうだ、私にはタラがある。タラに爆ろう」と。

あの天声人語で一世を風靡

した荒垣秀雄さんは敗戦後に失意のまま郷里に戻り、そこで気を取り直して再び立ち上がっている。まさに「国破れて山河あり」だと書いておられる。

いま高山駅西の交流センターをどうするかで市民が目している。駅西には文化会館もある。駅舎も含めて、どうか飛騨高山にふさわしいものであって欲しいと思う。

「風と共に去りぬ」のタラをタカヤマに置き替えてみてはどうだろう。古き良き時代と比べて、余りにもグッシャモノイものが増えた気がする。高山を過去完了形にしてしまってはならない。

(ガンモン毛筆)

お詫びと訂正
前号の一面に掲載した写真の説明文が間違っており、訂正しお詫び申し上げます。

〔誤〕宇津江四十八滝 魚返滝
〔正〕魚溜りの滝(莊川町)

魚溜りの滝(莊川町)

道伝えの日 「芭蕉忌句会」入賞句発表

◎一般の部 兼題句「林檎」

互選の句

〔天位〕

真青なる空に手を入れ林檎も
柴田 恭子

〔地位〕

林檎むく産み月の娘の肌透け
中嶋 文子

〔入位〕

林檎落つ口ダンは今も思索中
鈴木善一郎

〔天位〕

真青なる空に手を入れ林檎も
柴田 恭子

〔地位〕

キツチンの改装園引く青りん
小泉 孝子

〔入位〕

白き鉢林檎のかけに刃のひか
桂川 晶子

〔佳作〕

林檎むく産み月の娘の肌透け
中嶋 文子

〔地位〕

掌の古傷痒し林檎剥く
山腰みかよ

〔入位〕

書くならば私小説よし林檎噛む
中嶋 源兆

〔佳作〕

林檎剥く女同士となる母子
桂川 晶子

〔地位〕

読み聞かす慶女の林檎の赤きこと
澤木 正子

〔天位〕

当季雑詠句
互選の句
風呂の嬰を丸く抱えて良夜かな
渡瀬いく子

〔地位〕

小豆千す空に折目のなかりけ
桂川 晶子

〔入位〕
雛の戸押せばこぼれぬ秋の露
山下 守

〔天位〕

風呂の嬰を丸く抱えて良夜かな
渡瀬いく子

〔地位〕

葉還る半分ほどで眠くなり
伊藤 浩子

〔入位〕

勢ひに傾く書割村芝居
小泉 孝子

〔佳作〕

雪の声緒の匂ふ山中紙
小鳥 輝枝

〔天位〕

不祝儀の日も揺れ止まぬ秋桜
北川登志子

〔地位〕

小さき魚海へ帰して星月夜
清水 敬子

〔入位〕

小豆千す空に折目のなかりけ
桂川 晶子

〔天位〕

天高し父似母似の法事寒
教崎 清子

◎高校生の部 飛騨神岡高等学校

〔特選〕
流星に高校生活を乗せてみる
三年 大窪あいな

〔入選〕
水加減して輝いた今年米
二年 橋本 宏太

〔天位〕
赤とんぼ遠くの君へ文を書く
二年 前田 朱里

〔地位〕
メル友の遠くなりゆく神無月
二年 宮之腰 楓

〔入位〕
高山西高等学校

〔特選〕
秋空に思い浮かべる祖父の顔
二年 三塚かんな

〔地位〕
夕暮れの光がしみる秋の山
二年 中谷 麗

〔入選〕
学校の窓から見える初紅葉
二年 梶井 愛里

〔天位〕
益田清風高等学校

〔特選〕
湖の水面に映える紅葉かな
二年 無笹 竜也

〔地位〕
夜明け方朝寒肌に突き刺さる
三年 小鳥 春菜

〔入選〕
人想い新れど届かぬ神無月
三年 日下部友香

第16回高山市近代文学館企画展
郷土の文学碑
西部地区と旧吉城郡編

高山市文化協会では、皆さんに文学や文芸に親しんでいただくこと、郷土の文学者の作品等を紹介する展示会を定期的に開催しています。

今回は、前回に引き続き、故中舎高郎氏が執筆された『飛騨の文学碑選』の中から、西之一色町（文学散歩道や八日町をはじめ、国府、上宝、奥飛騨温泉郷、一之宮の

各地域にある文学碑について、写真やパネル等で紹介します。入場無料です。お誘いあわせの上、お出かけください。

期間 二月十日（金）～十二日（日）

時間 午前十時～午後五時（最終日は午後四時まで）

場所 高山市図書館換章館
一階生涯学習ホール

お問い合わせ 高山市民文化会館 tel 0577-33-8333
主催 高山市 / (社)高山市文化協会 tel 0577-34-6550 fax 0577-34-6877
http://www.takayama-bunka.org

おめでとうございます

文化協会会員の表彰



高山市文化功労者（芸術文化顕彰）
新澤愛子（昭和町2）
多年にわたり創作パレエの普及に努めるとともに、飛騨地域の先駆的な指導者として後進の指導に尽力



岐阜県伝統文化継承者顕彰
新田幸雄（馬場町1）
上田流尺八道・飛騨竹籠会会長指導者として多年にわたり演奏技術の継承に尽力



岐阜県伝統文化継承者顕彰
藤井久子（名田町3）
日本舞踊・若柳流師範多年にわたり「紅囃会」を主宰し、後進の指導に尽力

市制施行75周年記念 高山市文化芸術鑑賞事業

柄本明 一人芝居 「風のセールスマン」

◇日時 平成24年2月19日（日）
開場14:30 開演15:00

◇場所 久々野公民館

◇チケット料金 全席自由
一般2,500円 メセナメイト2,000円

◇チケット販売所
高山市民文化会館、久々野公民館

チケット好評販売中!



お問い合わせ 高山市民文化会館 tel 0577-33-8333
主催 高山市 / (社)高山市文化協会 tel 0577-34-6550 fax 0577-34-6877
http://www.takayama-bunka.org

市制施行75周年記念 高山市文化芸術鑑賞事業

青島広志&オーケストラアンサンブル金沢 ～モーツァルトを取りまく人達～

高山公演

◇日時 平成24年2月6日（月）
開場18:30 開演19:00

◇場所 高山市民文化会館大ホール

◇チケット料金 一般3,000円 メセナメイト2,500円
全席自由 高校生以下1,000円

◇チケット販売所 チケット好評販売中!
高山市民文化会館、こくふ交流センター、
飛騨市文化交流センター

アイネ・クライネ・ナハトムジーク第一楽章を
自分の楽器でオーケストラと一緒に演奏できます。

お問い合わせ 高山市文化協会 tel 0577-34-6550



お問い合わせ 高山市民文化会館 tel 0577-33-8333 主催 高山市 / (社)高山市文化協会